

第59回海外日系人大会における開会挨拶

皆様、おはようございます。外務副大臣の佐藤正久です。

本日、秋篠宮同妃両殿下の御臨席を賜り、ここハワイにおきまして、世界各地から多くの日系人の方々が集い、第59回海外日系人大会が盛大に開かれますことを、心からお慶び申し上げます。

150年前、勇気と冒険心に満ちた150余名の日本人の方がハワイへ向け渡航して以降、日系人の皆様の活躍の場は、世界の諸地域に拡大し、今や日系人の数は、世界全体で推定360万人以上に上ります。日系人の皆様が、世界各地で信頼され尊敬されていることは、私たちにとって大きな誇りであります。

私自身、先般メキシコにおいて、そして、このオアフ島に来る前にハワイ島において日系人の記念館を訪問し、先人の労苦を改めて目の当たりにし、感動と感謝の念を改めて胸に深く刻んだところがあります。

日本政府は、日系社会の皆様との連携を一層強化し、次の世代に引き継ぐために、様々な取組を行ってまいります。

7月には、日系人の皆様から強い要望がありました、日系4世の受入れにつきまして新しい制度が施行されます。また、従来の招へい事業に加え、日系人の皆様の間繋がり支援するネットワーク形成事業、日系社会の実相調査も行なってまいります。

本年も、日系人のリーダーの方々を招へいし、日本のリーダーとの交流や日系人としてのルーツの再確認を通じ日系人の方々と日本の関係を深めることができました。

私自身の経験でございますが、本年2月、キューバを訪問し、キューバの日系人の代表の皆様と交流し、日本人キューバ移住120

周年記念式典では、日本とキューバの日系社会とのより強固な連携を築き、共に発展したいとの希望を表明いたしました。

一般に同盟とは、価値観、負担、そしてリスクを共有しなければ、共にいられないという意見がございます。

そういう意味で、ここまでの日系人の皆様の歩んだ道は決して平坦ではありませんでした。一昨年、この地で日米の首脳は、かつて戦火を交えた日本と米国が、寛容の心と和解の力により、強い絆で結ばれた同盟国となったことを確認いたしました。この歴史のど真ん中に、日系人の皆様の姿がありました。この大会が、「世界の日系人レガシー」を語り継ぎ、「未来の礎」として、次の世代に伝えていく機会となることを祈念申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

(了)